



京都市立高倉小学校 研究発表会【2次案内】

【研究主題】

自ら学び高め合い 学びをよりよい生き方に生かそうとする子 の育成

～子どもの「主体性」の向上と指導者の「授業改善」に生きる評価の在り方を目指して～

寒冷の候、皆様におかれましては、ますますご清栄の段、お喜び申し上げます。

さて、本校では「よりよい生き方を求めて 誇りをもち 未来にはばたく 高倉の子」という学校教育目標のもと、「自ら学び高め合い 学びをよりよい生き方に生かそうとする子 の育成」を研究主題に掲げ、研究の取組を進めて参りました。

かねてより本校では、より質の高い学習を目指してパフォーマンス課題による評価を取り入れた授業実践を行って参りました。この度、長年ご指導いただいている京都大学大学院教育学研究科教育方法学研究室の先生方に、直接パフォーマンス評価についてご指導いただけるワークショップを企画いたしました。ぜひ、本校の研究報告会に多数ご参加いただき、ともに学びを深めさせていただくとともに、ご指導・ご助言いただきますよう、ご案内申し上げます。

【日 時】 令和6年 2月8日（木） 13時50分～17時

（13時20分～受付開始）

パフォーマンス課題について

パフォーマンス課題とは、ペーパーテストでは測れないような、複数の知識やスキルを総合して使いこなす力の発揮を求める複雑な課題のことです。本校ではパフォーマンス課題を、「単元を通して身につけた力を総合的・発展的に活用できる」「多様な考え方で問題解決することができ、いろいろな表現方法で説明することができる」「児童の日常生活と関連したり、ストーリー性をもっていたりして、単元を通して興味・関心・意欲が持続する」ような課題と考えており、単元を貫く課題と位置付け、単元の中に組み込んでいます。そして、課題解決のプロセスや成果物等を多面的・多角的に評価を行うようにしています。

新しい学習指導要領改訂において、こうしたパフォーマンス評価の重要性についても強調されています。また、今年度の京都市指導計画（スタンダード）の資料でも、パフォーマンス課題による評価を取り入れた授業展開が取り上げられています。

【タイムスケジュール】

13:50	14:35	14:45	15:00	16:30	17:00
【公開授業】 2年4組 4年3組 5年2組	休憩	研究 報告	【ワークショップ】 やってみよう パフォーマンス評価！ ～ループリックを作ろう～ 西岡加名恵先生	【指導講評】 石井英真先生 奥村好美先生	

【公開授業】 ※学習内容やパフォーマンス課題は変更する可能性があります。

低学年部

2年4組	西田 早稀	国語科	「世界に一つだけのお話をつくろう」
------	-------	-----	-------------------

【パフォーマンス課題】

みなさんはこれまで国語の学しゅうや読書の時間を通してたくさんのお話にふれてきました。「お話の作しゃになろう」の学習では、はじめてお話の作者になります。友だちやおうちの方が楽しく読めるように、「はじめ」「中」「終わり」の順序に気をつけて「世界に一つだけのお話」をつくりましょう。



中学年部

4年3組	水川 唯衣	理科	「もののあたたまり方」
------	-------	----	-------------

【パフォーマンス課題】

みなさん、金属のあたたまり方についてわかりましたね。水や空気も同じようなあたたまり方をするのでしょうか。これからものの温まり方についてくわしく調べていきましょう。そして、身の回りの生活の中からものの温まり方の具体的な例をたくさん見つけましょう。ものがどのように温まっているのか、図で示しながらクラスの人々に分かりやすく説明しましょう。



高学年部

5年2組	牧 慎也	社会科	「情報を生かす産業」「情報を生かす私たち」 君たちはどう生きるか～Takakura5.0～
------	------	-----	--

【パフォーマンス課題】

いま、世界は転換期である。「Society4.0」から「Society5.0」の世界へ変わる瞬間を君たちは生きている。大人たちが生きてきた時代とは違う新たな世界。君たちはどう生きるか。学習したことをもとに、情報を活用する上であなたが大切だと思うことを、「Takakura5.0」として未来に向けて宣言してほしい。



【研究報告会】

挨拶	京都市立高倉小学校	校長	野口 十三枝
研究報告	京都市立高倉小学校	研究主任	田中 清明
指導講評	京都大学大学院教育学研究科	教授	西岡 加名恵 先生
	京都大学大学院教育学研究科	准教授	石井 英真 先生
	京都大学大学院教育学研究科	准教授	奥村 好美 先生

【ワークショップ】

やってみよう パフォーマンス評価！ ～ルーブリックを作ろう～

□パフォーマンス評価とは？ルーブリックとは？

パフォーマンス評価とは、現実的で真実味のある「真正な」場面を設定するなど、子どものパフォーマンスを引き出して試す課題を設計し、その活動に対するプロセスや成果物を評価する「パフォーマンス課題に基づく評価」のことで、ルーブリックとは、○×で答えられない子どもたちの高次な思考や深い理解を評価するために独自に考える新たな評価の指針のことで、

□ルーブリックはどうやって作るの？

パフォーマンス評価は客観テストだけでは測れない学力を測るため、複数名で検討することで評価の妥当性を担保することが必要となります。ルーブリック作りは主に以下のプロセスを経て行います。

- ① お互いの採点が分からないように、作品を採点する。
- ② お互いの採点を交流する。
- ③ 似た採点がついた作品を集めて、特徴について話し合う。
- ④ 特徴を特定して「記述語」を作成する。
- ⑤ 指導計画の妥当性を話し合い、パフォーマンス課題や単元計画を練り直す。

今回は、京都大学大学院教育学研究科のご指導のもと、研究発表会に参加された皆様と一緒に実際にルーブリック作成を行います。

□今回考える課題は？

今回は、9月に校内研究授業として行った6年生社会科「今に伝わる室町文化」において作成したパフォーマンス課題「あなたは文化庁の職員です。今回、京都に来る観光客向けに、京都の文化を紹介する資料を作成する仕事を任せられました。室町文化の特色を調べ、なぜ室町文化が今に伝わる文化なのか、事実をもとに考察し、報告書を作成しましょう。」のルーブリックについて考えます。



～講師の先生のご紹介～



～西岡 加名恵 先生～

京都大学大学院教育学研究科修士課程修了。英国バーミンガム大学にて Ph.D. (Ed.) 取得。鳴門教育大学講師等を経て、2017年4月より現職。専門は教育方法学（カリキュラム論、教育評価論）。英米での調査や日本の学校との共同研究を通して、パフォーマンス課題やポートフォリオ評価法、学校におけるカリキュラム改善などについて研究している。

育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員（2012年12月～2014年3月）、第3期 SIP「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」サブ・プログラムディレクター（2023年4月～現在）など。

～主な著書～

- 『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』（単著・図書文化 2003年）
- 『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』（単著・図書文化 2016年）
- 『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』（編著・明治図書 2016年）
- 『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』（共編著・日本標準 2019年）
- 『「逆向き設計」実践ガイドブック』（共編著・日本標準 2020年）



～石井 英真 先生～

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学大学院教育学研究科助教、神戸松蔭女子学院大学専任講師を経て、2012年4月より現職。博士（教育学）。専門は教育方法学（学力論）。日米のカリキュラム研究、授業研究の蓄積に学びながら、学校で育成すべき資質・能力の中身やそれらを実質的に実現しうるカリキュラム、授業、評価のあり方について研究している。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ（2017年7月～2019年1月）、今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会委員（2022年12月～現在）、

～主な著書～

- 『増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開——スタンダードに基づくカリキュラムの設計』（単著・東信堂 2020年）
- 『授業づくりの深め方』（単著・ミネルヴァ書房 2020年）
- 『未来の学校 ポスト・コロナの公教育のリデザイン』（単著・日本標準 2020年）
- 『流行に踊る日本の教育』（編著・東洋館出版社 2021年）
- 『ヤマ場をおさえる学習評価 小学校・中学校』（共編著・図書文化 2021年）



～奥村 好美 先生～

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。兵庫教育大学講師、准教授を経て、2022年4月より現職。博士（教育学）。専門は教育方法学（教育評価論、カリキュラム論）。日蘭をフィールドに、学校や教師の自律性・多様性を尊重しながら教育の質を維持・改善していくための教育評価のあり方に関心を持って研究している。

～主な著書～

- 『＜教育の自由＞と学校評価—現代オランダの模索』（単著・京都大学学術出版会 2016年）
- 『「逆向き設計」実践ガイドブック』（共編著・日本標準 2020年）

【参加申込について】

参加申し込みは、下の QR コードを読み取っていただき、2月5日（月）までに必要事項を入力の上、お申込みください。

【注意】

ご来校の際は、公共交通機関・バイク・自転車などをご利用ください。

【参加費】

1000円 ※京都市内から参加される方 及び 学生の方は、無料です。

【連絡先】

京都市中京区高倉通六角下る和久屋町343
TEL (075) 211-8784 FAX (075) 211-8785
本校HP <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/takakura-s/>

